

平成29年改訂学習指導要領の趣旨を踏まえた 学習評価の進め方

小学校 音楽科

この資料は、平成29年改訂学習指導要領（以下、学習指導要領）に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（以下、「参考資料」）の考え方を基に、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における、指導と評価の一体化に向けた取組の推進にぜひお役立てください。

目次

1	学習評価の基本的な考え方	1
2	学習評価の観点	1
3	学習評価の進め方	2
4	小学校音楽科の目標	3
5	評価の観点及びその趣旨	3
6	「内容のまとめり」及び「内容のまとめりごとの評価規準」	4
7	題材の評価規準の作成	5
8	観点ごとの評価と評価する際の留意点	8
9	小学校音楽における評価の事例	12
10	学習評価の進め方 Q & A	21

1 学習評価の基本的な考え方

○学習評価とは

児童生徒の資質・能力を育成するために、目標に照らして児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握すること

○学習評価を行う上で重要なポイント

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

学習評価を行うに当たっては、児童生徒一人一人の資質・能力を育成できるようにすることが大前提です。そのためには、児童生徒の進歩の状況や教科等の目標の実現状況を適切に把握することが必要です。把握した内容は、児童生徒にフィードバックして児童生徒の学習改善につなげられるようにし、教師は自身の指導改善につなげます。このことなくして児童生徒一人一人の資質・能力の育成は望めません。つまり、学習評価を行う上で、「普段の授業の不断の見直し」が不可欠だと言えます。

○学習評価の機能

指導に生かす評価・・・児童生徒一人一人の学習状況を把握し、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと

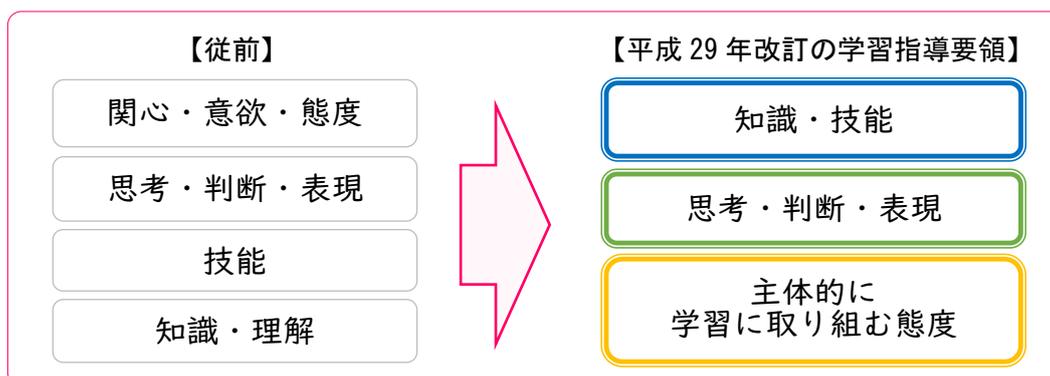
指導に生かす評価の場面は、随時存在します。児童生徒の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況(B)以上になることを目指して、必要な指導を適宜行います。

記録に残す評価・・・観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価のこと

記録に残す評価の場面は、毎時間設定する必要はありません。児童生徒全員の評価を記録に残す場面を精選することが重要です。単元や題材のまとまりの中で、評価規準に照らして、児童生徒の観点別学習状況を把握し、記録します。

2 学習評価の観点

学習指導要領では、各教科等の目標や内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱を基に整理されました。目標や内容の整理を踏まえ、小・中・高等学校の各教科を通じて、評価の観点も4観点から3観点到整理されました(下図参照)。



3 学習評価の進め方

本資料で説明して
いるページ

①「小学校音楽科の目標」等の確認

- ・学習指導要領や学習指導要領解説で、教科の目標や内容を確認し、授業で育成を目指す資質・能力を明確化します。

P 3

②「評価の観点及びその趣旨」等の確認

- ・「評価の観点及びその趣旨」と「学年別の評価の観点的趣旨」を確認します。

P 3～P 4

③「内容のまとめり」及び「内容のまとめりごとの評価規準」の確認

- ・「内容のまとめり」や（共通事項）の位置付け、「内容のまとめりごとの評価規準」を確認します。

P 4～P 5

④「年間の指導と評価の計画」の確認

- ・「年間の指導と評価の計画」を確認します。

⑤「題材の目標」の設定

- ・①～④を踏まえて設定します。
- ・児童の実態、前題材までの学習状況を踏まえて設定します。

⑥「題材の評価規準の作成」

- ・「題材の評価の基本構造」と「評価規準の作成のポイント」を参考にして、題材の評価規準を作成します。

P 5～P 8

⑦「評価計画の作成」（本資料「観点ごとの評価と評価する際の留意点」を参照）

- ・評価の場面、評価方法を計画します。
- ・「おおむね満足できる」状況（B）と判断するときの基準や「努力を要する」状況（C）となりそうな児童への手立て等について考えます。

P 8～P 11

⑧授業・評価（本資料「小学校音楽科における事例」を参照）

- ・授業を行い、観点別学習状況の評価を行います。
- ・児童の学習の実現状況を見取り、評価結果を児童の学習改善や、教師の指導改善に生かすようにします。

P 12～P 20

⑨観点ごとの総括

- ・集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点別学習状況の評価の総括（A、B、C）を行います。

P 20

⑩評定への総括

- ・観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果をA、B、Cの組み合わせ、又は、A、B、Cを数値で表したものに基づいて総括します。

P 21

4 小学校音楽科の目標

学習指導要領において、全ての教科の目標は、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されました。小学校音楽科の目標は次のとおりです。

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	知識及び技能
(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。	思考力、判断力、 表現力等
(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。	学びに向かう力、 人間性等 ※

各学年の目標及び内容については、学習指導要領でご確認ください。

※(3)の「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、②観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないので個人内評価を通じて見取部分があるとされています。そのため、評価の観点は、「主体的に学習に取り組む態度」と示されています。

5 評価の観点及びその趣旨



「評価の観点の趣旨」と
「学年別の評価の観点の趣旨」を確認しましょう。

(1) 評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。 ・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

* ゴシック体の部分は、低学年・中学年・高学年で異なる部分です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年及び第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。 ・ 音楽表現を楽しむために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて 思い をもったり、曲や演奏の 楽しさ を見だし、音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
第3学年及び第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。 ・ 表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて 思いや意図 をもったり、曲や演奏の よさなど を見だし、音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
第5学年及び第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。 ・ 表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて 思いや意図 をもったり、曲や演奏の よさなど を見だし、音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

6 「内容のまとめ」及び「内容のまとめごとの評価規準」



「内容のまとめ」とは、学習指導要領に示されている各学年の目標及び内容をそのまとめごとに細分化したり整理したりしたものです。



小学校音楽科における「内容のまとめ」は、次のとおりです。

- 「A表現」(1)歌唱 及び (共通事項) (1)
- 「A表現」(2)器楽 及び (共通事項) (1)
- 「A表現」(3)音楽づくり 及び (共通事項) (1)
- 「B鑑賞」(1)鑑賞 及び (共通事項) (1)

(共通事項) (1)アについては、全ての題材で必ず位置付けなければ学習として成立しないので、全ての「内容のまとめ」や「思考・判断・表現」の観点の中に位置付けられています。

「内容のまとめりごとの評価規準」とは、この資料では学習指導要領の「2 内容」の事項を「～すること」から「～している」に語尾を変えたものと呼ぶこととしています。この「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方等を踏まえて、題材の評価規準を作成します。



「内容のまとめりごとの評価規準（例）」は、国立教育政策研究所『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【小学校音楽】（以下、「参考資料」）pp. 88－97 に掲載されています。



7 題材の評価規準の作成



題材の評価規準は、学習指導要領の「第2 各学年の目標及び内容」の「2 内容」を基にして作成することができます。

学習指導要領の「2 内容」

- 事項ア…「思考力、判断力、表現力等」に関する事項
- 事項イ…「知識」に関する事項
- 事項ウ…「技能」に関する事項



下の表は、**題材の評価規準の基本構造**です。

下線部は、指導事項の文言を「学年別の評価の観点の趣旨」に沿って置き換えた部分です。

ゴシック体の [] 内と波線部は、題材で扱う内容に合わせて適切に選択して置き換える部分です。

評価規準の基本構造 例1

観点	第1学年及び第2学年「A表現・歌唱」の例
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて<u>気付いている</u>。【知識】 ・思いに合った表現をするために必要な、[事項ウの(ア)、(イ)、(ウ)]（いずれかを選択）を身に付けて歌っている。【技能】
思考・判断・表現	<p>[音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など]（その題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択）を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと<u>感じ取ったこととの関わりについて考え</u>、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。</p>

主体的に学習に取り組む態度	[その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、興味・関心をもたせたい事柄]に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に <u>歌唱</u> の学習活動に取り組もうとしている。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価規準の基本構造 例2

観点	第5学年及び第6学年「A表現・音楽づくり」の例
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・[事項イの(ア)又は(イ)]について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解している。【知識】 ・[この評価規準の後半で事項ウの(ア)を選んだ場合は「発想を生かした表現」、(イ)を選んだ場合は「思いや意図に合った表現」をするために必要な、[事項ウの(ア)又は(イ)]を身に付けて音楽をつくっている。【技能】
思考・判断・表現	[音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など](その題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて <u>考え</u> 、[事項アの(ア)又は(イ)](いずれかを選択し、文末を「～ている」と変更する)。
主体的に学習に取り組む態度	[その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、興味・関心をもたせたい事柄]に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に <u>音楽づくり</u> の学習活動に取り組もうとしている。

「評価規準の作成のポイント」

観点	「評価規準の作成のポイント」
知識・技能	<p>○原則として、「知識」と「技能」とに分けて設定します。</p> <p>○「知識」の評価規準の作成のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事項イの文末を「～している」と変更します。 ・文頭部分に曲名等を挿入してもよいです。 ・「A表現」の(2)器楽、(3)音楽づくりの分野では、知識に関する事項イに(ア)(イ)の2つが示されています。この場合、題材で扱う事項を1つ以上挿入します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>「知識」の評価規準の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3学年及び第4学年 「A表現」(1)歌唱 事項イ <input checked="" type="checkbox"/> 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。 </div> <p>○「技能」の評価規準の作成のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事項ウの文末を「～している」と変更します。 ・事項ウの文末を、扱う分野(歌唱、器楽、音楽づくり)に応じて、「歌っている」「演奏している」「音楽をつくっている」より選択して置き換えます。 ・「音楽づくり」の領域では、事項ウの(ア)を選んだ場合は、「発想を生かした表現をする

	<p>ために必要な、「事項ウ(ア)」を身に付けている」とします。事項ウの(イ)を選んだ場合は、「思いや意図に合った表現をするために必要な、「事項ウ(イ)」を身に付けている」とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「B鑑賞」の題材においては、「技能」の評価規準を設定しません。 ・「A表現」の(1)歌唱、(2)器楽の分野では、技能に関する事項ウに(ア)(イ)(ウ)の3つが示されています。また、(3)音楽づくりの分野では、技能に関する事項ウに(ア)(イ)の2つが示されています。この場合、題材で扱う事項を1つ以上挿入します。複数の事項を設定する際、評価場面や評価方法が同じである場合は、1文で表記することもできます。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「技能」の評価規準の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3学年及び第4学年 「A表現」(1)歌唱 事項ウ(ア) <p>技 思いや意図に合った表現をするために必要な、範唱を聴いたり、八長調の楽譜を見たりして歌う技能を身に付けて歌っている。</p> </div>
<p style="text-align: center;">思考・ 判断・ 表現</p>	<p>○「思考・判断・表現」の評価規準の作成のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事項アの前半部分「～についての知識や技能を得たり生かしたりしながら」は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とがどのような関係にあるのかを明確にするために示している文言であるので、評価規準には含めません。 ・文頭に〔共通事項〕アを入れます。その際、〔共通事項〕アの文末を「～考え、」と変更し、その後に扱う領域（A表現、B鑑賞）や分野（歌唱、器楽、音楽づくり）の事項アを組み合わせ、文末を「～している」と変更します。また、〔共通事項〕アの「音楽を形づくっている要素」の部分については、その題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して置き換えます。 ・〔共通事項〕アは、「思考力、判断力、表現力等」に関する内容を示しており、〔共通事項〕アと各領域（A表現、B鑑賞）や分野（歌唱、器楽、音楽づくり）の事項アは、一体的に捉えるべき内容であるため、「思考・判断・表現」の評価規準には、〔共通事項〕アを位置付けます。 ・「A表現」の(3)音楽づくりの分野では、「思考力、判断力、表現力等」に関する事項が(ア)(イ)の2つが示されています。この場合、題材で扱う事項を1つ以上挿入します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「思考・判断・表現」の評価規準の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年及び第2学年 「A表現」(1)歌唱 事項ア <p>思 <u>旋律、呼びかけとこたえ</u>を聴き取り、それらの働きが生み出す面白さや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。</p> <p>(<u>下線部</u>には、題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を設定して挿入します。)</p> </div>

主体的に
学習に
取り組む
態度

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成のポイント

- ・当該学年の「評価の観点の趣旨」の内容を踏まえて作成します。
- ・「評価の観点の趣旨」の文頭部分「音や音楽に親しむことができるよう」は、「主体的に学習に取り組む態度」における音楽科の学習の目指す方向性を示している文言であるため、評価規準には含めません。
- ・「評価の観点の趣旨」の「表現及び鑑賞」の部分は、扱う領域や分野に応じて「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」より選択して置き換えます。
- ・文頭部分には、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、児童に興味・関心をもたせたい事柄に関して記載することが考えられます。ただし、興味・関心をもっているかということのみを評価するものではないことに留意が必要です。
- ・「評価の観点の趣旨」の「学習活動」とは、その題材における「知識及び技能」の習得や「思考力、判断力、表現力等」の育成に係る学習活動全体を指しています。
- ・「評価の観点の趣旨」の「楽しみながら」の部分は、「主体的・協働的に」に係る文言であり、単に活動を「楽しみながら」取り組んでいるかを評価するものではありません。あくまでも、主体的・協働的に取り組む際に「楽しみながら」取り組めるように指導を工夫する必要があることを示唆しています。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の例

- ・第5学年及び第6学年 「A表現」(3)音楽づくり

例 楽器の音の響き、それらの組合せの面白さに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

8 観点ごとの評価と評価する際の留意点



- 学習評価については、日々の授業の中で児童の学習状況を適宜、把握しながら、児童の学習改善や教師の指導改善に生かすことが大切です。
- 評価規準は、1単位時間に平均1～2つを設定し、無理なく着実にいきましょう。
- 観点ごとの学習状況についての評価は、題材における内容や時間のまとまりを見通しながら、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなどして評価場面を精選し、適時・適切な場面で評価を行うことが大切です。
- 児童の発言や反応、ノートやワークシートの記述内容の分析、行動の観察、演奏の聴取など、多様な評価方法を工夫することが必要となります。

観点	観点ごとの評価と評価する際の留意点
知識・技能	<p>知識の評価</p> <p>A表現の「歌唱」、「器楽」及びB鑑賞では、曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いたり、理解したりしている状況を評価します。※「など」には歌唱における「歌詞の内容」等を含む。</p> <p>〔 曲想…その音楽に固有の雰囲気や表情、味わいのこと 音楽の構造…音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みとの関わり合いのこと 〕</p>

評価する場面

ワークシートの記述や発言の内容 など

具体的な記述例、発言例

- ・「はずんで楽しい感じがするのは、スキップのようなリズムが何度も出てくるから」
- ・「動物がお話をしているような感じがするのは、音楽が呼びかけとこたえのようになっているから」
- ・「楽しい感じがするのは、歌詞の中にいろいろな動物の鳴き声が出てくるから」
- ・「おだやかで懐かしい感じになっているのは、同じリズムが繰り返されていて、いつもとなり合った音のつながりになっているから。また、歌詞にふるさとのことを思ったり懐かしんだりする気持ちが込められているから」
- ・「落ち着いた感じから明るい感じに変わったのは、低音でゆっくりした旋律が出てくる前半に比べて、後半は旋律が高音で演奏されており、速さも速くなったから」

評価する際の留意点

- ・ A表現「器楽」の指導事項イ(イ)及びA表現「音楽づくり」の指導事項イ(ア)(イ)も知識の指導事項となるため、評価を行います。
A表現「器楽」の指導事項イ(イ)の評価…参考資料(事例1) p. 55を参照
A表現「音楽づくり」の指導事項イ(ア)、(イ)の評価…参考資料(事例2) p. 65を参照
- ・「音楽の構造」は、「思考・判断・表現」の評価規準において位置付けた音楽を形づくっている要素との関わりについて十分考慮して指導と評価を行う必要があります。
- ・(特に低学年では、)ワークシートに記述した内容や発言の内容だけでなく、歌ったり聴いたりしているときの表情や体の動きなどを観察するなどして評価することも大切です。

技能の評価

表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている状況の評価します。

評価する場面

歌唱・器楽

- ・演奏の聴取(思いや意図を実際の演奏で音楽表現できているか)
- ・行動の観察 など

音楽づくり

- ・音楽づくりの作品(記録したワークシートなど)、演奏の聴取
- ・行動の観察 など

評価する技能の例

- ・範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能
- ・自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能
- ・互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能

	<ul style="list-style-type: none"> ・音色に気を付けて、演奏する技能 ・互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能 など <p>* 学習指導要領 A 表現 (1) 歌唱 (2) 器楽 (3) 音楽づくりのウを参照</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価する際の留意点</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱・器楽の評価は、実際に児童の演奏を聴取して評価することが原則です。必要に応じて、学習過程での個人やペア、グループでの活動の際に、演奏の一部を取り出して聴取するなど、学習形態を工夫し、発言の内容や行動の観察を組み合わせながら、実態に合った方法で評価することも考えられます。 ・音楽づくりの評価は、即興的に表現する技能や音楽をつくる技能を評価するものであり、つくった音楽を演奏する技能について評価するものではありません。 ・「A 表現」の各分野（歌唱・器楽・音楽づくり）の技能の評価は、「思いや意図に合った表現をするために必要な技能」が身に付いているかということの評価するので、単に「間違わずに演奏できたか」ということだけではなく、「思考、判断、表現力等」と関連付けて評価を行うことが大切です。
<p>思考・ 判断・ 表現</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>思考・判断・表現の評価</p> </div> <p>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、<u>どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだし、音楽を味わって聴いたりしている</u>状況の評価します。（下線部…表現領域、波線部…鑑賞領域）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価する場面</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記述した内容 ・発言の内容や演奏の聴取 など <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>具体的な記述例、発言例</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「2羽の鳥が呼びかけ合いながら遠ざかっていく感じが伝わるように、強く、やや弱く、やや強く、弱く歌おう」という考えをもっている。（表現・歌唱） ・「前半の弾んだ感じと後半のゆったりとした感じの違いを表したいから、前半はスタッカートで音を弾ませて演奏し、後半は一つ一つの音を滑らかにつなげて演奏しよう」という考えをもっている。（表現・器楽） ・「この曲は、はじめと終わりに演奏される打楽器のリズムと金管楽器による旋律が力強さと堂々とした感じを出しているのがすてきで、聴いていると自分も前向きな気持ちになります」という音楽的な根拠に基づいた曲や演奏のよさについての考えをもっている。（鑑賞） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価する際の留意点</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「A 表現」の各分野（歌唱・器楽・音楽づくり）の評価では、児童の「思いや意図」を的確に見取ることができない場合は、意図を尋ねるなどして、児童が思いや意図をもったり、膨らませたり、明確にしたりすることができるよう、教師が働きかけを行い、見取りを行うようにします。

主体的に学習に取り組む態度の評価

音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている状況を評価します。

主体的に学習に取り組む態度において「満足できる状況」(A・B)の具体例

- ・学習のめあてを把握し、見通しをもって学習に取り組んでいる。
 - ・技能を習得したり、思考力等を身に付けたりする学習に粘り強く取り組んでいる。
 - ・音楽表現を創意工夫するなどの音楽活動に前向きに取り組んでいる。
 - ・意欲的に表現活動に取り組んだり、集中して鑑賞活動に取り組んだりしている。
 - ・グループやペアでの活動で積極的に他者と関わりながら取り組もうとしている。
- これらを行動観察や授業中の発言、ワークシートの記述などから見取ります。

評価する際の留意点

- ・ある場面に限定して評価を実施するのではなく、題材を通じて行い、学習の改善や指導の改善に生かし、観点別の学習状況を記録に残すことにつなげていくことが重要です。
- ・主に「粘り強い取組を行おうとする側面」と粘り強い取組を行う中で、「自らの学習を調整しようとする側面」について評価します。
- ・主に観察によって「努力を要する」状況(C)と判断されそうな児童の学習状況を継続的に把握し、学習の改善に向けて丁寧に児童に働きかけることが必要です。その際、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自ら学習を調整しようとする側面」の両方を見取り、どちらに課題があるかを把握し、指導の改善に生かすようにします。例えば、「自らの学習を調整しようとする側面」に課題が見られた場合、適宜、「十分満足できる」状況(A)と判断される児童の学習状況を他の児童へのモデルとして紹介するなどして、自らの学習を調整しようとしていけるようにすることが考えられます。指導に際して、学習の調整に向けた取組のプロセスには、児童一人一人の特性があることから、特定の型に沿った学習の進め方を一律に指導することのないよう配慮することが必要です。
- ・「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点における達成状況を踏まえながら、発言の内容に見られる学習内容への興味、友達の発言に対する反応、歌っているときなどの表情や体の動きの観察、歌声の聴取、グループにおいて表現の工夫に取り組んでいるときの様子や、リコーダーを演奏しているときの行動の観察などから児童の学習状況を捉えます。
- ・必要に応じて適宜、粘り強く取り組むように励ましたり、授業のねらいを確認し自分なりに考えさせたり、友達の表現の工夫のよさに気付かせ、様々な工夫を試させたりするなど児童の学習改善が図られるようにします。
- ・各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるか、自らの学習を調整しようとしているかを継続的に見取るようにし、教師の指導改善につなげるための評価として位置付けます。
- ・児童の観察、発言の内容とワークシートの記述内容とを関連付けながら総合的に検討し、観点別の学習状況を記録に残すことにつなげることが大切です。
- ・「B鑑賞」では、集中して曲を聴こうとしているか、どのような音楽なのかについて興味をもっているか、感じたことをワークシートに書こうとしているかなどについて観察することにより評価を行います。
- ・授業中の観察と授業後の児童の振り返りの記述などを補完的に扱うなどして、無理なく、全員の児童を確実に評価できるようにします。

主体的に
学習に
取り組む
態度

9 小学校音楽科における評価の事例

事例 キーワード…「指導と評価の計画から評価の総括まで」

1 題材名 「曲の特徴を生かして表現しよう」(第6学年)「A表現・歌唱」「B鑑賞」

2 題材の目標

- (1) 「ハンガリー舞曲 第5番」、「Wish～夢を信じて」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付ける。
- (2) 「ハンガリー舞曲 第5番」、「Wish～夢を信じて」の旋律、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いたり、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったりする。
- (3) 曲の特徴を感じ取ったり、生かした表現をしたりする学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や歌唱の学習活動に取り組み、鑑賞曲や合唱曲に親しむ。

3 指導事項との関連

A表現(1)歌唱 ア、イ、ウ(ウ) B鑑賞(1) ア、イ [共通事項] (1) ア

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」、「呼びかけとこたえ」)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①[知] 「ハンガリー舞曲 第5番」の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解している。(鑑賞)</p> <p>②[知] 「Wish～夢を信じて」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。(歌唱)</p> <p>③[技] 思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けている。(歌唱)</p>	<p>[思]① 「ハンガリー舞曲 第5番」の旋律、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞)</p> <p>[思]② 「Wish～夢を信じて」の旋律、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱)</p>	<p>[態]① 曲の特徴を感じ取ったり、それを生かした表現を工夫したりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や歌唱の学習活動に取り組もうとしている。(鑑賞、歌唱)</p>

次	時間	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態	◆評価規準 *留意点
第一次	第1時	<p>◎「ハンガリー舞曲 第5番」の曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。</p> <p>○「ハンガリー舞曲 第5番」の曲の特徴を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ハンガリーについて知り、ハンガリーを題材とした音楽に興味をもつ。 曲の構成（ア→イ→ア）を知る。 アを聴き、曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて考え、分かったことをワークシートに書く。 他者との対話的な活動を通して、自分の考えを広げ深める。 アの曲の特徴をワークシートに書く。 アの曲を聴き、特徴を確認する。 				<p>*主体的に学習に取り組む態度は、第1時～第5時まで継続的に見取り、第5時に評価を総括して記録に残す。</p>
	第2時	<p>○旋律、呼びかけとこたえなどを聴き取り感じ取りながら、曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲全体を味わって聴き、紹介文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> イを、旋律、呼びかけとこたえに着目して聴き、曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて考え、分かったことをワークシートに書く。 他者との対話的な活動を通して、自分の考えを広げ深める。 イの曲の特徴をワークシートに書く。 イの曲を聴き、特徴を確認する。 イの曲の後に、再びアの曲が出てくることを確認し、曲全体を通して聴く。 曲の特徴を踏まえながら、曲や演奏のよさについての紹介文を書く。 紹介文を互いに読み合い、よさを共有する。 曲や演奏のよさなどを感じながら、曲全体を味わって聴く。 	<p>①知 記述 ・発言 ・観察</p>	<p>①思 記述 ・発言 ・観察</p>	<p>◆「ハンガリー舞曲 第5番」の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解している。（鑑賞）</p> <p>◆「ハンガリー舞曲 第5番」の旋律、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。（鑑賞）</p>	

		◎「Wish～夢を信じて」の曲の特徴にふさわしい表現を工夫して合唱する。			
第二 次	第3時	<ul style="list-style-type: none"> ○「Wish～夢を信じて」の歌詞が表す様子や曲の特徴を捉える。 ・範唱を聴く。 ・旋律、呼びかけとこたえを聴き取り感じ取りながら、「Wish～夢を信じて」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え、分かったことをワークシートに書く。 ・リズムや音程に気を付けて、上声部を範唱に合わせて歌詞唱する。 ・リズムや音程に気を付けて、下声部を範唱に合わせて歌詞唱する。 	② 知 記 述 ・ 発 言 ・ 観 察		◆「Wish～夢を信じて」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。(歌唱)
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> ○「Wish～夢を信じて」の曲の特徴を捉えて表現を工夫する。 ・パートに分かれ、二部合唱で歌う。 ・「Wish～夢を信じて」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解したことを生かして、歌唱表現を工夫し、どのように歌うかについての思いや意図をワークシートに書く。 ・実際に歌い試しながら、他者との対話的な活動を通して、自分の考えを広げ深める。 		② 思 記 述 ・ 発 言 ・ 観 察	◆「Wish～夢を信じて」の旋律、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱)
	第5時	<ul style="list-style-type: none"> ○3～4時で学習したことを生かし、どのように歌うかという思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌う。 ・パートに分かれ、二部合唱で歌う。 ○本題材の学習を振り返り、自分が頑張ったことやもっと頑張りたいこと、できるようになったことや友達の見聞を聴いてなるほどと思ったことなどをワークシートに書く。 	③ 技 聴 取		<ul style="list-style-type: none"> ◆思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けている。(歌唱) ◆曲の特徴を感じ取ったり、それを生かした表現を工夫したりする学習に興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や歌唱の学習活動に取り組もうとしている。(鑑賞、歌唱)

6 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 評価規準の設定と評価計画の工夫

評価項目の③[技]については、②[思]の後に評価を行うようにしました。これは、技能に関する事項における「思いや意図に合った表現をするために必要な技能」という位置付けに基づき、「思考力、判断力、表現力等」と関連付けられた技能を見取るため、ここに位置付けています。

(2) 指導内容の関連付け

題材を構成するに当たっては、適宜、〔共通事項〕アの内容を要としながら、各領域や分野の関連を図ることが重要なことから、本事例では、(1)鑑賞における事項イ及び歌唱における事項イの知識の学習において、旋律や呼びかけとこたえなどの音楽を形づくっている要素を思考・判断のよりどころとしながら、「曲想と音楽の構造との関わり（歌唱分野では、歌詞の内容との関わりを含む）」という共通する知識の内容同士を結び付け、互いに関連性をもたせるよう題材を構成しています。

(3) 指導に生かす評価と学習状況を記録に残す場面との関わり

本題材で評価規準を設定して行っている評価は、評価規準に基づいて児童の学習状況をA、B、Cで判断し、一定期間（学期、年間等）の総括に集約する評価です。一方、教師は授業の中で常に児童の学習状況を把握し、それを基に児童の学習を充実させていく**指導に生かす評価**を行います。指導計画や授業の展開において、このような指導に生かす評価と関わらせながら、**評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面**を適切に位置付けていくことが重要です。例えば、「主体的に学習に取り組む態度」は、第1時から第5時までに位置付け、各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるか、また、自らの学習を調整しようとしているかを継続的に見取るようにし、教師の指導改善につなげるための評価（**指導に生かす評価**）として位置付けています。この際、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価を行うことが大切になります。第5時の学習状況を**記録に残す場面**では、第1時から第4時までの児童の学習状況を踏まえた上で本題材の評価規準を基にししながら、「おおむね満足できる」状況（B）、「十分満足できる」状況（A）を判断していくこととなります。その際、必要に応じて、予想される児童の姿を幅広く想定しておくことが効果的です。



教師は、学習状況を記録に残す場面だけで評価を行うのではなく、授業の中で常に児童の学習状況を把握し、指導に生かす評価を行っていかねばなりません。

教師は、授業の中で「努力を要する状況」（C）と判断されそうな児童に対し、適切な手立てを講じ、児童全員がその授業の中で少なくとも「おおむね満足できる」状況（B）となるよう、指導に生かしていくことが大切です。

(4) 指導と評価の計画

本題材では、それぞれの観点について、以下の方法で授業と評価を進めました。

観点	評価規準	評価方法（◇）と見取りのポイント（・）
知識・技能	①知 「ハンガリー舞曲第5番」の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解している。（鑑賞）	【第2時】 ◇ワークシートの記述・発言の内容・行動の観察 ・ワークシートの記述から、曲想と音楽の構造との関わりについて理解しているかを見取ります。 ・補助的に発言の内容や行動の観察を判断の参考として総合的に判断します。

		<p>「十分に満足できる」状況（A）と判断する例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに、曲想と音楽の構造との関わりについて理解したことを詳しく具体的に記述している。 ・対話的な活動において、具体例を挙げながら詳しく発言している。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">ワークシートの記述例 下線部…質的な高まり</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>同じせんりつやリズムが何度も使われていて、追いかけていて感じる感じがしました。また、呼びかけとこたえのところでは、2人の人が交代しながら、話している感じがしました。<u>いろいろなところに呼びかけとこたえがあり、小さな呼びかけとこたえと大きな呼びかけとこたえがあるので、音楽の聞き方によって、いろいろな情景を思いうかべることができました。</u></p> </div> <p>下線部において、曲中の多くの呼びかけとこたえに着目して聴くことができおり、曲想と音楽の構造との関わりについて質的な高まりを読み取ることができるため、（A）と判断しました。</p> </div>
		<p>「努力を要する」状況（C）と判断されそうな児童への働きかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が旋律の動きに着目して聴くことができるように、教師が身振りや手振りなどの身体的表現を用い、視覚的な支援を行います。 ・聴き取り感じ取ったことについて、丁寧なやり取りを行います。 ・友達の発言に対して、「同じように感じましたか」など、自分の気付きと重ねて考えられるような問いかけをします。
<p>②知 「Wish～夢を信じて」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。（歌唱）</p>	<p>【第3時】</p> <p>◇ワークシートの記述・発言の内容・行動の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述から、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解しているかを見取ります。 ・補助的に発言の内容や行動の観察を判断の参考として総合的に判断します。 	<p>「十分に満足できる」状況（A）と判断する例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解したことを具体的な箇所を示して詳しく記述している。 ・対話的な活動において、具体的な箇所を示して詳しく発言している。

		<p>ワークシートの記述例 下線部…質的な高まり</p> <p>はじめは、みんなで同じせんりつを歌っていて、途中から2つのパートに分かれていました。<u>2つのパートに分かれているところから曲がもり上がって</u>いって、途中の部分は、呼びかけとこたえになっていて、広い空を表しているような感じがしました。<u>呼びかけとこたえのところの歌詞が、この曲のキーワード</u>になっていると思います。曲の最後は、また同じせんりつになっていました。</p> <p>下線部において、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて質的な高まりを読み取ることができるため、(A)と判断しました。</p>
		<p>「努力を要する」状況 (C) と判断されそうな児童への働きかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴き取り感じ取ったことについて丁寧にやり取りを行います。 ・友達の発言に対して、「同じように感じましたか」など、自分の気付きと重ねて考えられるような問いかけをします。
<p>③ 技 思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けている。(歌唱)</p>		<p>【第5時】</p> <p>◇演奏の聴取・発言の内容・ワークシートの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述を基にして、演奏の聴取を中心に行います。 ・補助的に発言の内容や行動の観察を判断の参考として総合的に判断します。 <p>「十分に満足できる」状況 (A) と判断した例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループや全体での学習過程において、思いや意図に合った歌唱表現をするために十分な技能を身に付けて歌っている。 <p>(A) と判断した具体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「思いや意図」について、思②のワークシートに記述していることを歌唱表現に結び付けるに十分な技能を身に付けており、歌唱表現で表している。 ・各声部の歌声や全体の響き、伴奏をしっかりと聴きながら、声を出すタイミングを揃えたり、音量を調整したりするなど、質の高い技能を身に付けて、歌っている。
		<p>「努力を要する」状況 (C) と判断されそうな児童への働きかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように歌いたいかという思いを聞き取り、そのために必要な技能を確かめ、その技能を習得するための支援を行います。 ・技能が身に付いている友達の歌い方を参考にするように助言します。

思① 「ハンガリー舞曲 第5番」の旋律、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞)

【第2時】

◇ワークシートの記述・発言の内容・行動の観察

- ・「ハンガリー舞曲 第5番」の音楽のよさや面白さを生み出している音楽を形づくっている要素の働きに着目し、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えているかを見取ります。
- ・音楽的な根拠に基づいて、曲や演奏のよさなどについて考えをもって曲を聴いているかを、ワークシートに記述した曲の紹介文の内容より見取ります。
- ・補助的に第一次（主に第2時）の学習における発言の内容や行動の観察を判断の参考として総合的に判断します。

「十分に満足できる」状況（A）と判断した例

- ・紹介文に、音楽的な根拠に基づいて曲や演奏のよさなどについて考えを深めている内容や質的な高まりが読み取れる内容を記述している。
- ・対話的な活動における発言の内容に質的な高まりが見られる。

ワークシートの記述例 下線部…質的な高まり

□の部分では、低い音がたくさん使われていて、ぶきみな感じがしました。□の部分では、同じようなせりつが何回もくり返されていて、犬とねこが会話しているような感じがしました。わたしは、せりつが何度も変化して、こわくなったり、楽しくなったりして、とてもおもしろい曲だと思いました。ぜひ、きいてみてください。

下線部において、音楽を形づくっている要素を基に、曲の面白さを見だしており、質的な高まりを読み取ることができると、(A)と判断しました。

「努力を要する」状況（C）と判断されそうな児童への働きかけの例

- ・聴き取り感じ取ったことについて丁寧なやり取りを行い、曲や演奏のよさについて気付かせ、紹介文に記述できるように支援します。

思② 「Wish～夢を信じて」の旋律、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表

【第4時】

◇ワークシートの記述の内容・発言の内容・行動の観察

- ・「Wish～夢を信じて」の音楽のよさや面白さを生み出している音楽を形づくっている要素の働きに着目し、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えたことを基に、曲の特徴にふさわしい歌唱表現を工夫し、思いや意図をもっているかをワークシートの記述の内容から見取ります。
- ・補助的に発言の内容や行動の観察を判断の参考として総合的に判断します。

	<p>現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (歌唱)</p>	<p>「十分に満足できる」状況 (A) と判断した例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに、旋律、呼びかけとこたえなどについて聴き取り感じ取ったことに基づいて、どのように歌いたいかという思いや意図を具体的な箇所を挙げて具体的に詳しく記述している。 ・対話的な活動における発言の内容に質的な高まりが見られる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>ワークシートの記述例 下線部…質的な高まり</p> <p>曲のはじめの、みんなで同じせんりつを歌うところは、歌詞の1つ1つの言葉を大切にしてみんなと心を合わせて歌いたいと思います。<u>途中は、呼びかけとこたえの部分になっているので、くり返すごとに曲をもり上げていくように歌いたいです。くり返す部分のせんりつは、自分たちの夢がだんだん大きくなって空にはばたくような感じを表現するために、だんだん大きく豊かなひびきのある声で歌いたいと思います。そして、最後はみんなで同じせんりつを一步一步、夢に向かって歩いていくような感じで歌いたいです。</u></p> <p>下線部において、呼びかけとこたえや旋律について聴き取り感じ取ったことを基にして、どのように歌いたいかという思いや意図を具体的に書いており、質的な高まりを読み取ることができると、(A) と判断しました。</p> </div> <p>「努力を要する」状況 (C) と判断されそうな児童への働きかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴き取り感じ取ったことについて丁寧なやり取りを行い、どのように表現を工夫したいのか、またどのように歌いたいのかについて思いや意図を尋ねます。
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>態① 曲の特徴を感じ取ったり、それを生かした表現を工夫したりする学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や歌唱の学習活動に取り組もうとしている。(鑑賞、歌唱)</p>	<p>【第1時から第5時】</p> <p>◇行動の観察・発言の内容・ワークシートの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで歌唱表現したり表現を工夫したりしようとしているか。 ・集中して音楽を聴いたりよさについて考えたりしようとしているか。 ・他者と関わりながら、学習活動に取り組もうとしているか。 ・自分の考えなどをワークシートに書こうとしているか。 ・課題を把握し、見通しをもって学習に取り組もうとしているか。 ・自らの学習を振り返ったり見直したりしようとしているか。 ・学習状況を記録に残す場面として、題材の最後(第5時)に設定し、学習の振り返りの記述内容も加味して見取ります。その際、第1時から第4時までの児童の学習状況も踏まえて評価するようにします。

		<p>「十分に満足できる」状況（A）と判断した例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に学習目標を意識しながら、学習活動に粘り強く取り組み、他者とも進んで関わりながら、適宜、自らの学習を振り返ったり、見直したりしようとしている。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>（A）と判断した具体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞活動では、集中して音楽を聴き、音楽のよさや美しさについて考えている様子が見られる。 ・合唱活動では、進んで歌ったり、粘り強く活動できていない友達に励ましの声掛けをしたりして、みんなでよりよい合唱となるように取り組む姿が見られる。 ・ワークシートの記述から、毎時間の学習目標を把握して学習に取り組んでおり、適宜、振り返りや見直しを行っている状況が読み取れる。 ・ワークシートの記述や行動観察や発言等から、毎時間の目標を達成していることが見取れ、自らの学習状況を把握・調整し、自ら学ぼうとしている姿が見られる。 <p>第1時から第5時において、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価し、第5時に総括しました。その取組が、質的に高まった状況であると判断し、（A）と判断しました。</p> </div> <p>「努力を要する」状況（C）と判断されそうな児童への働きかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、粘り強く取り組むように励ましたり、授業のめあての確認をしたりして、学習を調整していくための働きかけ等を行います。
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

7 観点別学習状況の評価の総括の考え方

本事例では、「知識・技能」の「知識」に関する評価規準として、①知と②知の2つを設定しました。また、「思考・判断・表現」の評価規準についても、同様に①思と②思の2つを設定しました。本事例においては、指導内容に即して、①知と②知及び①思と②思は、それぞれどちらの評価規準も同等に重要であると判断したため、特に重点を置く評価規準をつくらず、同等に扱って総括しました（題材によっては、題材の終末に重点を置いた総括も考えられます。重点を置いた総括については、参考資料p. 64を参照してください）。

なお、本題材では、「主体的に学習に取り組む態度」については、題材において学習内容に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりしているかどうかについて継続的に見取るようにし、それらの結果を総括して学習状況を記録に残す場面は題材の最後のみで行うように設定しています。そのため、題材の最後で行った記録に残す評価が総括した結果ということになります。

	総括の流れ	総括の考え方の例
同等に扱って総括する場合	「思考・判断・表現」	Aと判断する場合
	(例)	・ Aが1個以上の場合 (ただし、もう1個がCではない)
	児童① 思①→A 思②→B 総括→A	Cと判断する場合
	児童② 思①→A 思②→C 総括→B	・ 両方ともCの場合
児童③ 思①→C 思②→B 総括→B	Bと判断する場合	・ 上記以外全て

8 観点別学習状況の評価の評定への総括

評定とは、各教科の観点別学習状況の評価を総括した数値を表すものです。各観点の評価結果をA、B、Cの組み合わせ、又は、A、B、Cを数値で表したものに基づいて総括し、小学校では、3段階で表します。A、B、Cの組み合わせから評定に総括する場合、各観点とも同じ評価がそろう場合、例えば「BBB」であれば2を基本としつつ、「AAA」であれば3、「CCC」であれば1とするのが適当であると考えられます。それ以外の場合は、各観点のA、B、Cの数の組み合わせから適切に評定することができるよう、あらかじめ各学校において決めておく必要があります。なお、観点別学習状況の評価はA、B、Cのように表されますが、そこで表された学習の実現状況には幅があるため、機械的に評定を算出することは適当でない場合も予想されます。評定の適切な決定方法等については、各学校において定めるとされています。

10 学習評価の進め方Q & A

Q1 低学年における「知識」の評価方法は、どのようにすればよいですか。

A 音楽を形づくっている要素に関わる用語など、音楽に関する語彙をまだ十分にもっていない低学年の児童に対しては、ふさわしい評価方法の吟味が不可欠です。例えば、行動観察や発言内容、表情観察、ワークシートといった多角的な評価方法が考えられます。また、教師や友達の発言を聞いてうなずくといった行動や、声や表情に表われた反応などを注意深く観察し、知識の習得の状況を把握します。体の動きや発言、言葉や絵など、児童の発達の段階に応じた表現方法を取り入れて、総合的に判断することが必要です。

Q2 評価規準を統合して設定することは可能でしょうか。

A 可能です。ただし、評価場面や評価方法について慎重に検討することが不可欠です。知識の評価を統合する場合として、対応する事項の内容が共通するもの同士が考えられます（歌唱、器楽、鑑賞における「曲想と音楽の構造との関わり」など）。また、評価場面や評価方法が共通する知識と技能の評価及び技能同士の評価を統合することが考えられます。しかし、知識と技能の評価を統合することは、器楽イ(イ)とウ(イ)のように関連性が高いもの同士に限られます。なお、「知識・技能」の評価に際して、統合した形で一体的に評価を行った場合、どの内容について課題があったかを把握し、次の題材以降の指導に生かすことが大切です。

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説音楽編』 平成29年7月
- ・国立教育政策研究所 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校音楽』 令和2年3月